

社会資本整備審議会 道路分科会 関東地方小委員会 (平成28年度第1回)議事概要

1. 日 時 平成28年4月12日(火) 10:00~11:00

2. 場 所 東興本社ビル7階 貸会議室

3. 出席者

[委員長]

石田 東生 (筑波大学システム情報系社会工学域教授)

[委員]

石渡 恒夫 (社団法人 神奈川経済同友会代表幹事)

久保田 尚 (埼玉大学大学院 理工学研究科 教授)

桑野 玲子 (東京大学 生産技術研究所
都市基盤安全工学国際研究センター 教授)

小濱 哲 (横浜商科大学 貿易・観光学科 教授)

二村 真理子 (東京女子大学 現代教養学部国際社会学科 教授)

牧野 昌子 (特定非営利活動法人
ちば市民活動・市民事業サポートクラブ代表理事)

[関東地方整備局]

道路部長 村山 一弥

道路企画官 鈴木 通仁

長野国道事務所長 吉見 精太郎

4. 議 事

(1) 挨拶

・ 関東地方整備局 道路部長

(2) 審議

・ 一般国道20号長野県諏訪市～下諏訪町間の計画段階評価(第3回)について

<委員からの主な意見等>

- ・ 対応方針(案)について了承。
- ・ 既に都市計画決定されているルート都市計画変更することは、都市計画法52条の五(損失の補填)の観点からコストが増加するのではないか。今後、同様のケースで比較検討する場合は留意すべき。
- ・ 山側のルートとすることで生活環境への影響が低減されることは理解できるが、山特有の環境があるので、十分に配慮すること。
- ・ 地域への丁寧な対応は結果的にコスト縮減に繋がるため、今後もスピード感とのバランスを考慮し、対応していくことが重要である。

- ・できたものをどう地域で活用していくか、現道20号を今後どう活用していくか、完成した道路の活用方法も十分考慮して頂きたい。
- ・バイパス案が現都市計画案より優れている点の説明については補足が必要。例えば「トンネルが多くなるため環境への影響が小さい」、「幅員が大きくなるため交通流動が増し、交通円滑化に繋がる」など、各政策目標ごとに優れている点を強く出すことも検討して欲しい。

以 上